

優秀集落営農組織

組織名	所在地	設立年月	組織活動の概要
農事組合法人 ひがし 東ライスセンター	八頭町 東	令和2年 8月	<p>【集団設立の契機と発展の経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> 八東地区の農地保全と持続的な農地維持の必要性から、農業生産の協業、組合員と地域全体の農家との共同連帶を目的として前身である才代・東ライスセンターを組織改編し、令和2年に法人化。 <p>【集団活動の特徴と内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設立時は地域の農家等からの認知も低く、小集団活動的な運営となっていたが、近隣集落や農事実行組合の会合等に参加し、組織活動内容の説明等を行うことで、地域はもとより地域外からの認知も増えている。 令和3年度には補助事業を活用して、トラクターやコンバイン等の機械整備を行い、令和6年度には認定農業者となって地域農業の発展のための活動にいっそう取り組んでいる。 <p>【活動の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在では、田植え、刈取り、乾燥・粒摺り等の作業委託が増加し、農地利用権設定の面積も増加(R2:0ha→R7:23ha)するなど八東地区全体の農地の維持・継続、後継者不足等の課題解決の一翼を担っている。

組織名	所在地	設立年月	組織活動の概要
ふるさと宮米 みやまい	南部町 宮前	平成 26 年 3 月	<p>【集団設立の契機と発展の経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで小規模の兼業農家による水稻を中心とした生産が行われていたが、米価の低迷を受けて、将来への営農継続断念を考える農家が出てきた。そこで、平成 26 年に地域農地及び営農の受け皿となるべく、集落営農組織「ふるさと宮米」を立ち上げ、将来にわたる地域の中心的担い手として、集落内農地の集積を開始した。 <p>【集団活動の特徴と内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 従来、主食用米と飼料用米の生産を基軸に経営を進めていたが、複合経営による安定を図るために、令和 6 年度からは、町内酪農家への飼料供給として WCS の生産に取り組んでいる。 令和 5 年度以降、地域計画の作成に係る集落での話し合いを複数回開催しており、現時点では自作による農業を希望する方も、先々には集落営農に集約する意向を確認しており、集落内で将来の農地利用の担い手が具体化されている。 <p>【活動の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在は集落内水田の 95% をふるさと宮米が利用集積し、生産活動に取り組んでいる。また、農地に限らず機械等の一元利用も進めている。 集落は農地保全の意識が高く、集落全体で共同作業を行うことで、支えあいの中で農地が維持される集落コミュニティが形成されている。

組織名	所在地	設立年月	組織活動の概要
農事組合法人 むこうぐにやす 向国安生産組合	鳥取市 向国安	平成 19 年 2 月	<p>【集団設立の契機と発展の経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該集落には、古くから水稻生産組合が存在しており、トラクター作業、コンバイン収穫作業等が実施されていた。機械の更新を機に、法人を立ち上げ集落の水田を守って行こうという気運が高まり、平成 19 年 2 月に法人が設立され、栽培から販売までを管理する組織として発足した。同年 3 月に認定農業者に認定。 <p>【集団活動の特徴と内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進む中、水稻の省力・低コスト化を目指し、10 年以上前から直播栽培に取り組んでいる。 後継者育成のため、トラクターやコンバインの技術指導、作業のマニュアル化なども行っている。 地域の協力を得ながら田を守る営農を進めており、サポーター制度として非農家にも畦畔の草刈りや収穫補助作業などに出役を呼びかけている。 <p>【活動の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飼料用米を中心に取り組んでいる直播栽培では、大幅な省力化・低コスト化に成功した。現在では組合作付面積の約 7 割が直播栽培である。 近年では、ドローンを導入して防除作業や直播作業を行うなど、より一層の省力化に取り組んでいる。 サポーター制度により、非農家を含めた集落住民の協力体制が上手く機能し、地域内に耕作放棄地は見られていない。